2025年度

大学院医学研究科医科学専攻修士課程
遺伝カウンセリング学（シラバス）

東 京 慈 恵 会 医 科 大 学

2025年度　大学院医学研究科医科学専攻修士課程
（遺伝カウンセリング学）シラバス

１．大学院の目的・使命…… 1
２．大学院医科学専攻修士課程の目的…… 1
３．入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）…… 1
４．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）…… 2
５．卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）…… 3
６．「特定の課題研究（修士論文に代わるもの）」の審査体制および審査基準…… 4
７．授業の履修方法について…… 6
　１）概念図…… 6
　２）履修モデル…… 6
　３）単位の取得…… 6
８．行事予定…… 7
　１）大学院医学研究科入学式・ガイダンス…… 7
　２）健康診断…… 7
　３）大学院特別講義・セミナー（１年次：遺伝カウンセリング研究方法論）…… 7
　４）研究テーマ発表会（１年次：遺伝カウンセリング研究方法論）…… 7
　５）研究計画発表会（２年次：課題研究）…… 7
　６）課題研究の公開審査会・学位審査（２年次：課題研究）…… 7
　７）医科学専攻修了式…… 7
９．生活上の注意事項…… 8
　１）事務組織…… 8
　２）大学からの緊急連絡について…… 8
　３）メンタルヘルス・カウンセリング事業…… 8
　４）成績評価・単位認定・研究指導及び学位審査に関する相談・不服申し立て…… 9
10．各種事務手続き……10
11．2025年度カリキュラム……10
　１）授業時間割……10
　２）科目一覧……11
　３）カリキュラムの内容……12
12．東京慈恵会医科大学大学院学則……29
13．学術情報センター利用案内……39
14．履修届（必修科目・選択科目）

１．大学院の目的・使命

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づく研究，教育，医療を推進できる高度な能力を涵養し，医学・看護学研究の振興，医療の実践を通して人類の健康と福祉の向上に貢献することが本学大学院の使命である。

２．大学院医科学専攻修士課程の目的

医科学専攻修士課程は，遺伝情報（ゲノム情報）を利用した医療・保健の現場で患者に寄り添うために，幅広い最新の遺伝医療の知識を有し，加えて豊かな人間性とチーム医療に必要なコミュニケーション能力を持ち，さらに国際的視野を兼ね備えた医療保健分野での専門職である遺伝カウンセラーを育成することを目的とする。

３．入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

本課程のアドミッションポリシーは以下の通りである。

本課程のカリキュラムを修得でき，修了時に求められる能力を達成できる学生として，入学時に以下の人材を求める。

１）入学時に，学士相当の知識を有する者，特に人間科学系科目，自然科学系科目，医療系科目の修学に備えた知識を有する者

２）遺伝カウンセリングの実践，研究の遂行に必須である遺伝カウンセリングに関する論文等を読み内容を理解できる英語力を有している者

３）医療専門職としてコミュニケーション能力，適性，倫理感，問題解決能力を有している者

４）将来，認定遺伝カウンセラーとして社会に貢献する強い意志がある者

４．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

ディプロマポリシーを達成するために,「基礎科目」,「専門科目」,「遺伝カウンセリング系科目」,「実習・特別研究科目」を組み合わせたカリキュラムとする。様々なバックグランドのある学生に対応できるように以下の通り教育課程の編成を行う。

カリキュラムポリシー

1）医学や保健医療の基本的な知識，理論を学ぶため，基礎科目として「保健医療概論」,「ヒトの解剖・生理学」,「医療統計学」を配置する。

2）遺伝カウンセリングの基盤を学ぶため，遺伝医学系の専門科目として「基礎人類遺伝学」,「臨床遺伝学Ⅰ」,「臨床遺伝学Ⅱ」,「遺伝性腫瘍・がんゲノム医療」,「ゲノムバイオインフォマティクス基礎」を配置する。

3）遺伝カウンセリングの概念から知識・技術，倫理的側面を学ぶため，遺伝カウンセリング系科目として「遺伝カウンセリング概論」「遺伝カウンセリング演習」「遺伝カウンセリング実践論」を配置する。

4）コミュニケーション能力，多様な社会的背景，価値観など，ナラティブな側面への理解を涵養するため，徹底したロールプレイを取り入れた科目を専門科目と遺伝カウンセリング系科目に複数配置する。

5）実習・特別研究科目の「遺伝カウンセリング実習」は，本学附属病院を中心とし，多彩な疾患の遺伝診療，遺伝カウンセリングに，様々なクライエントがセッションに満遍なく陪席をする。陪席したのちは遺伝カウンセリング記録を作成し，教員からのフィードバックを得る。

6）実習・特別研究科目（遺伝カウンセリング研究）として，遺伝カウンセリングに関する研究を実践するための研究計画の立案や研究指導を行う「遺伝カウンセリング研究方法論」,「課題研究」を配置する。

7）医学研究科医学系専攻博士課程の共通科目「医療統計学」,「遺伝子操作研究法」は，本課程のディプロマポリシーにも合致するため共用する。

8）遺伝カウンセリングに関する科目は，国際的な視野を重視するため海外の状況を学び，原則教科書は英語原書を用いる。

5．卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

設置するコースは，高度の専門的職業人の養成に重点を置き，加えて遺伝カウンセリングの指導者，さらに現場より抽出された課題についての遺伝カウンセリング研究の実践可能な能力を養うことを目的とする。

よって以下の通りディプロマポリシーを定める。

ディプロマポリシー

1）保健医療に関する情報を多面的に理解し，科学的・論理的に考察することができる。

2）遺伝カウンセリングに関する歴史，定義，理論，面接技法などの専門的な知識・技術に基づいて遺伝カウンセリングを実施できる。

3）クライエントとその家族の多様な社会的背景，価値観など，ナラティブな側面に配慮しながら信頼関係を構築し，高度の倫理観と使命感も持って遺伝カウンセリングを実践できる。

4）豊かなコミュニケーション能力を有し，多職種と協働できる。

5）遺伝カウンセリングにおける課題を論理的に分析し，その解決に必要な研究を実践できる。

6）国際的な視野に立ち，遺伝カウンセリングに関する文献や情報を得ることができる。

本課程では，所定の修業年限（2年）に在籍し，人材育成の目的に沿って設定した授業科目を履修して修了要件となる単位を取得し，特定の課題の研究成果の審査および試験に合格したものに修士（医科学）の学位を授与する。

6.「特定の課題研究（修士論文に代わるもの)」の審査体制および審査基準

1）研究計画書作成から学位審査までのスケジュール

1年次	遺伝カウンセリング研究方法論	11月頃	研究テーマに沿って計画書作成
		12月頃	発表用パワーポイントの作成
		1-2月頃	研究テーマ発表会での発表
2年次	課題研究	4月	研究指導教員の決定
		7月	研究計画発表会での発表
		9-12月	特定の課題研究の論文作成
		1月	特定の課題研究の論文提出
		2月	特定の課題研究の論文の公開審査会と学位審査
		3月	研究科委員会最終審査

2）審査体制

審査は指導教員の中から主査を1名，同じく指導教員の中から副査を2名選出する。副査のうち1名は，直接の研究指導を実施する教員とする。

主査・副査の選定は大学院委員会にて検討し，研究科委員会で決定する。

3）審査基準

下記の7項目についてそれぞれ3段階で評価を実施する。

⑴ 研究の目的・背景の明確性

⑵ 研究計画・方法・結果の妥当性

⑶ 社会的意義

⑷ 独創性

⑸ 発表能力および質疑応答への対応

⑹ 提出された論文（課題レポート）の構成・内容

⑺ 総合評価

4）学位論文審査基準の内容

⑴　研究の目的・背景の明確性

研究テーマが明確で，論理性，先進性，発展性の観点から妥当であるか。

研究テーマと関連する研究領域の動向を調査し十分に把握しているか。

先行研究について深く理解するとともに的確な評価が行われているか。

⑵　研究計画・方法・結果の妥当性

研究目的を達成するための方法論について正しく理解しているか。

分析方法に合理性があり，分析結果に問題が無く，かつ十分な説得力を持っているか。

⑶　社会的意義

学術的意義を有し，社会に貢献する内容か。

その研究の発展性，将来の展望を説明できるか。

⑷　独創性

新しい発想に基づく研究であるか。

従来の研究と異なる斬新さがあるか。

⑸　発表能力および質疑応答への対応

論文内容を明確かつ端的に発表でき，質疑応答に的確に対応できたか。

専門領域の先端的な知識を有するか。

論理展開に整合性があるか。

発表時間が適切か。

⑹　提出された論文（課題レポート）の構成・内容

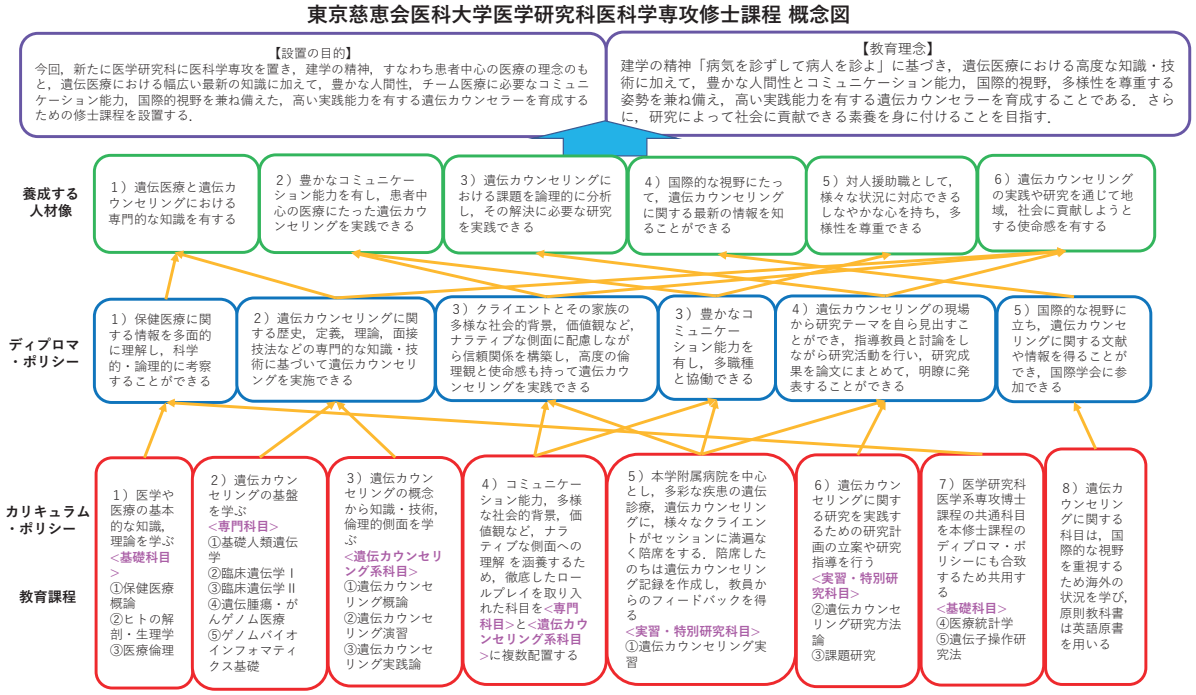
指定された形式にて記載しているか。

5）その他

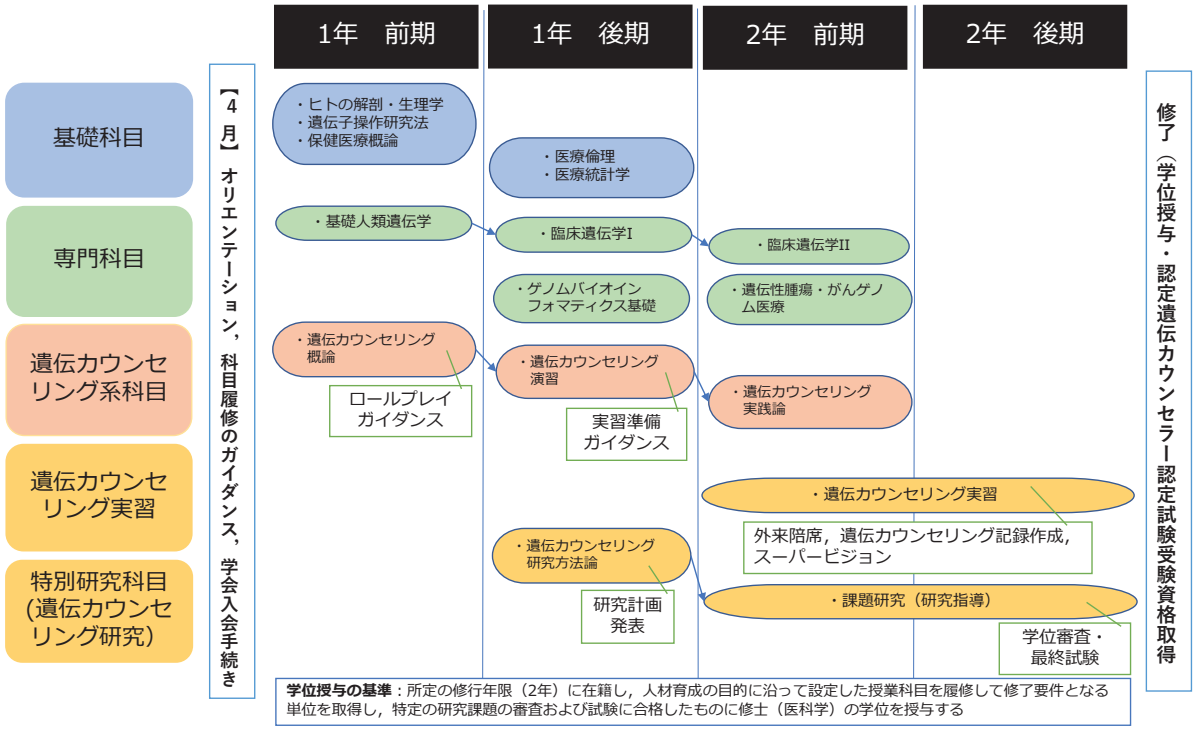
特定の課題研究において人を対象とした医学研究に相当する場合は，本学の倫理委員会への申請を行う。

7．授業の履修方法について

1）概念図



2）履修モデル



3）単位の取得

必修科目および選択科目より授業を選択，履修し，単位を取得する。

取得すべき単位は必修科目28単位を含む，33単位以上とする。

8．行事予定

1）大学院医学研究科入学式・ガイダンス

2025年 4 月 2 日（水） 13時00分　　大学 1 号館講堂（ 3 階）

2）健康診断

6 月中旬に実施予定，詳細は別途通知する。

3）大学院特別講義・セミナー（1 年次：遺伝カウンセリング研究方法論）

⑴ 大学院特別講義

2025年 7 月11日（金）11時30分～17時10分（予定）：遠隔授業（Zoom）

⑵ 大学院特別セミナー

2025年 7 月11日（金）17時30分より：遠隔授業（Zoom）

4）研究テーマ発表会（1 年次：遺伝カウンセリング研究方法論）

2026年 1 月または 2 月に開催（追って日時は指定する。）

5）研究計画発表会（2 年次：課題研究）

2025年度は実施なし

6）課題研究の公開審査会・学位審査（2 年次：課題研究）

2025年度は実施なし

7）医科学専攻修了式

2025年度は実施なし

9．生活上の注意事項

1）事務組織

大学事務部学事課が大学院の事務を担当する。

担当部署　　大学事務部　学事課

場　　所　　大学１号館　１階

窓口業務　　月曜日～土曜日（祝日，大学の記念日，年末年始除く）

時　　間　　９時00分～17時30分

内線番号　　2317

2）大学からの緊急連絡について

⑴　大学より必要に応じて学生に連絡をする場合がある。必ず連絡の取れる連絡先（メールアドレス・携帯電話番号）を大学に伝えること。また、変更となった場合は、至急大学に連絡すること。

大学からの連絡は、①メール、②携帯電話の順で行う。

⑵　メールは、日々確認すること。

⑶　大学から連絡があった場合で返信が求められるものは、至急返信すること。

電話での返信は、上記の時間帯とする。

3）メンタルヘルス・カウンセリング事業

相談する場合には，下記の要領で相談手続きを行うこと。

⑴　相談内容　学生の心配事，悩み事（ハラスメント等を含む）に応じる。

但し，内容によっては対応できない場合もある。

※相談内容については守秘義務により堅く守られる。

⑵　相談方法　①相談室にて臨床心理士と面談

②電話またはメールにて臨床心理士と相談

⑶　申込方法　メールにて申し込み

⑷　連絡先　　jscr.shinbashi@jikei.ac.jp

4）成績評価・単位認定・研究指導および学位審査に関する相談・不服申し立て

学生の成績評価，単位認定，研究指導および学位審査に関しては，当該学生および当該以外の学生，教職員からの相談や不服申し立てが行える制度である。

学生等（当該学生，当該以外の学生，教員，職員）からの申し立て

■相談例
・研究指導の面談に応じてもらえない。
・授業や学修以外のことで度々メールが送られる。
・人格を否定するようなことを言われる。など

↓

相談・不服申し立て窓口

下記に相談・不服申し立てを行うこと。
■大学事務部学事課　大学院担当　内線2317
E-mail　daigakuin@jikei.ac.jp

↓

当該学生の希望に沿った対応

■相談例
・匿名で話を聞いてほしい。
・第三者学生の同席のもとで相談したい。
・希望教員の同席のもとで不服申し立て相手の教員に説明を求める。など

↓

申立者への報告

↓

専攻長または研究科長への報告

※但し，問題の発端となっている教員は除く。

10. 各種事務手続き

1）氏名章・学生証について

①学内では氏名章・学生証を着用する。

②紛失した場合は，学事課に届け出る。

③学術情報センター図書館入室の際，必要となる。

2）各種証明書の発行について

学事課窓口で，各種証明書等を発行している。主なものは下記のとおりである。

1．在学証明書	1通300円（和文）・1,000円（英文）
2．成績証明書	1通300円（和文）・1,000円（英文）
3．学位取得証明書	1通300円（和文）・1,000円（英文）
4．学生教育研究災害傷害保険（学研災）加入証明書	無料
5．学割	無料（但し，申込条件を満たすもの）

※原則として交付には4日間，英文は1週間。但し，学割は3日後とする。

11. 2025年度カリキュラム

1）授業時間割

2025年度の時間割は別紙『2025年度東京慈恵会医科大学大学院　医科学専攻修士課程　時間割』を配布する。

【注意事項】

・授業時間割は予定であり，年度開講後に変更となる場合もある。

・大学院入学試験日には，原則として授業を行わない。

・課題研究については研究指導教員の指示のもとに定める。

2）科目一覧

科目名	英文名	学年	時期	必修・選択	形態	コマ数	単位
保健医療概論	Introduction to Health Care and Medical Service	1年	後期	必修	講義	15	2
ヒトの解剖・生理学	Human anatomy and physiology	1年	前期	必修	講義	12	1
医療倫理	Clinical ethics	1年	後期	必修	講義	15	2
遺伝子操作研究法	Gene manuplation research	1年	前期	選択	講義・演習 実験	15	1
医療統計学	Medical statistics	1年	後期	選択	講義・演習	15	2
基礎人類遺伝学	Basic human genetics	1年	前期	必修	講義	15	1
臨床遺伝学I	Clinical genetics I	1年	後期	必修	講義	15	1
臨床遺伝学II	Clinical genetics II	2年	前期	選択	演習	15	2
遺伝性腫瘍・がんゲノム医療	Hereditary cancer and cancer genomic medicine	2年	前期	選択	講義・演習	15	1
ゲノムバイオインフォマティクス基礎	Basics of genomic bioinformatics	1年	通年	選択	講義・演習	8	1
遺伝カウンセリング概論	Introduction to genetic counseling	1年	前期	必修	講義	15	2
遺伝カウンセリング演習	Applied genetic counseling	1年	後期	必修	演習	15	1
遺伝カウンセリング実践論	Practical genetic counseling	2年	前期	必修	講義	15	1
遺伝カウンセリング実習	Clinical rotation for genetic counseling	2年	通年	必修	実習	―	10
遺伝カウンセリング研究方法論	Methods and implementation of genetic counseling research.	1年	後期	必修	講義・演習 実習	15	2
課題研究	Paper research & Basic seminar	2年	通年	必修	演習	―	5

3）カリキュラムの内容

科 目 名：保健医療概論 英 文 名：Introduction to Health Care and Medical Service 科目区分：基礎科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：後期 単 位 数：2単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：医療，医療システム，医療保健に関わる職種，医療法，医療保険制度，チーム医療，患者の権利，自己決定権やそれに必要な学習理論，医療安全，健康，リハビリテーション，最新の個別化医療など保健医療の初歩的・基礎的な概要を俯瞰し理解する。医療系出身でないバックグラウンドの学生をターゲットにした講義である。受講学生は，講義を受けた後にひとつのテーマを選び最終回に発表を行う。教科書に従った講義に加え，現場の専門職からの特別講義あり。

到達目標：遺伝カウンセラーという医療保健に関わる専門職として業務する際の，医療保健の基礎を理解できる。

授業方法：講義形式。最終回には，事前に選択したテーマについて教科書等を中心にして発表資料を作成する。その発表に関して討論する。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	保健医療概論：オリエンテーション・講義の進め方	川目　裕 竹内　千仙
2	医療とは	川目　裕 佐藤　正美
3	医療システム（我が国と海外）	
4	医療保険制度（我が国と海外）と介護保険制度	
5	医療を支える専門職	
6	チーム医療	佐藤　正美
7	医療安全	川目　裕 佐藤　正美
8	インフォームドコンセントと患者の権利	石橋　由朗
9	自己決定支援と学習理論	石橋　由朗
10	健康とは	佐藤　正美
11	リハビリテーション，ノーマライゼーション	川目　裕 佐藤　正美
12	ゲノム時代の健康管理	川目　裕 福島　明宗
13	終末期医療	川目　裕 佐藤　正美
14	災害医療・救急医療	
15	発表会	川目　裕 佐藤　正美 石橋　由朗

準備学習：【時間】1コマの授業に対して4時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に教科書等を用いて予習を行うこと。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。テーマの内容とプレゼンテーションを総合的に評価する。

参 考 書：小橋元，近藤克則，黒田研二, 千代豪昭著：学生のための医療概論。第4版。(医学書院)。2020

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：ヒトの解剖・生理学 英 文 名：Human anatomy and physiology 科目区分：基礎科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：前期 単 位 数：1単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：遺伝カウンセラーとして様々な疾患に対応するにあたり，その疾患の症状や病態を理解するために，ヒトの解剖的な形態や構造について，さらに生理学的な機能を系統的に学ぶ。医療系出身でないバックグラウンドの学生をターゲットにした講義である。さらに各系統における遺伝性疾患についても学ぶ。

到達目標：ヒトの各機能を系統的に把握するとともに，各機能を担う臓器の名称，位置，形態を理解できる。

授業方法：講義形式

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	オリエンテーション：からだの区分と面や方向を示す用語	川目　裕 竹内　千仙
2	小児と成人	川目　裕 小林　正久
3	循環器系	川目　裕 竹内　千仙
4	消化器系	
5	神経系①	
6	神経系②	
7	泌尿生殖系①	
8	泌尿生殖系②	
9	内分泌系	
10	感覚器系	
11	呼吸器系	
12	筋骨格系	

準備学習：【時間】1コマの授業に対して1時間45分の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に指定するテキストの当該項目の予習を行い講義に臨むこと。人文系，生命科学系の学生に対しては，その履修度に応じて補習授業を行う。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。毎回の課題への対応（40%），筆記試験（60%）。

教 科 書：ぜんぶわかる人体解剖図－系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説。成美堂出版 2010

参 考 書：グレイ解剖学　原著第4版。エルゼビア・ジャパン株式会社；第4版。2019

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：医療倫理 英 文 名：Clinical ethics 科目区分：基礎科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：後期 単 位 数：2単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：遺伝カウンセラーの実践目標には，倫理的・法的・社会的課題（Ethical-legal-social issues: ELSI）に対応できることが求められている。本講義では，ELSIを理解し，さらに個別の課題に対応するための，医療倫理の基礎を学ぶ。総論として生命倫理と哲学，各論として生殖補助医療，出生前診断，着床前診断，終末期医療と安楽死，移植医療，発症前診断，エンハンスメント，生殖細胞系列ゲノム編集などを学ぶ。講義内では，実際の課題事例を取り上げて，討論も行う。

到達目標：医療倫理における様々な内容を理解し，その課題について考えることができる。

授業方法：講義形式，提示された課題の提出。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	オリエンテーション：総論，生命倫理の基本原則，基盤となる考え方	川目　裕 浦野　真理
2	遺伝情報の取り扱いと関連の法やガイドライン	
3	インフォームドコンセントと患者の権利	竹内　千仙
4	終末期医療と安楽死	
5	臨床倫理	
6	生殖補助医療	川目　裕 佐村　修
7	出生前診断と胎児の権利	
8	着床前診断，エンハンスメント	
9	小児の保因者診断と発症前診断	川目　裕 浦野　真理
10	ジェンダーとセクシュアリティ	川目　裕 佐村　修
11	発症前診断：遺伝性神経疾患発症前診断の現状と課題	竹内　千仙
12	ゲノム編集	大橋　十也
13	臨床研究における倫理	
14	専門職の倫理綱領	川目　裕 浦野　真理
15	ゲノム医療と倫理問題：総括	

準備学習：【時間】1コマの授業に対して4時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に指定するテキスト等の当該項目の予習を行い講義に臨むことが望ましい。講義で提示される課題については，講義内容を復習しながら提出を行う。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。出席，課題の提出状況を総合して評価する。

参 考 書：
・伏木信次，樫則章，霜田求編集。生命倫理と医療倫理　第4版（金芳堂） 2020
・Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン&トンプソン遺伝医学　第16章（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 2017
・児玉聡。マンガで学ぶ生命倫理。（化学同人）2013

オフィスアワー：
担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：遺伝子操作研究法 英 文 名：Gene manuplation research 科目区分：基礎科目（医学系専攻共通カリキュラム） 担当教員：小林博司	開講学年：1年次 開講学期：前期 単 位 数：1単位（選択） 開講形態：講義・演習・実験

授業概要：遺伝カウンセラーは，様々な遺伝学的検査や体細胞遺伝子の解析結果を解釈し，遺伝カウンセリングでわかりやすく情報提供を行う。これらの結果が生み出されるまでの遺伝子操作や解析技術のプロセスを実際の解析実験を行い学習する。

到達目標：遺伝学的検査に用いられる解析技術を理解できる。

授業方法：対面による講義・演習・実験。

授業計画：（1回は1時間10分）

回	内　容	担当者
1	遺伝子操作：実際のサンプルを用いての遺伝子解析（講義・実験）	小林　博司
2		
3		
4		
5		
6	遺伝子解析実験：実際のサンプルを用いての遺伝子解析（講義・実験）	
7		
8		
9		
10		
11	遺伝子変異の意義：遺伝子異変の疾患への影響（病的変異と正常多型） （講義・実験）	
12		
13		
14		
15		

準備学習：【時間】授業1コマあたり150分ずつ予習・復習時間を求める。
【予習・復習内容】下記の参考書の該当箇所を予習すること。また実験，演習については，別途指定された資料を予習しておくことが必要。

評価方法：講義および演習の出席，受講態度等によって総合的に評価する。各講義・演習の終わりに質疑応答の場を設け，フィードバックを行う。

参 考 書：・Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 2017
・参考文献及び資料は，随時提示または配布する。

オフィスアワー：担当教員　小林博司・嶋田洋太・樋口孝・松島小貴　hrkb@jikei.ac.jp
受付時間・場所　授業終了後の30分間・大学1号館6階実習室

科 目 名：医療統計学 英 文 名：Medical statistics 科目区分：基礎科目（医学系専攻共通カリキュラム） 担当教員：松島雅人	開講学年：1年次 開講学期：後期 単 位 数：2単位（選択） 開講形態：講義・演習

授業概要：統計学の基礎，確率，確率変数，確率分布，推定，さらに2群の比較，3群以上の比較，分散分析，オッズ比，リスク比，交絡因子の概念など，実際の医療における題材を用いて講義を実施する。医療者として最低限，身につけておくべき医学統計学の講義。

到達目標：遺伝カウンセラーとして様々な医療データや遺伝的リスクを解釈し，さらに自身の臨床研究のデータ解析の基礎とするために，医学統計学の基礎的概念や用語を理解できる。

授業方法：対面講義

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1 2	統計学の目的，変数の尺度，記述統計	松島　雅人
3 4	確率変数と確率分布（2項分布，正規分布）	
5 6	推定（中心極限定理，信頼区間），検定（検定の概念，母平均の検定，母比率の検定，2群間の平均値の検定）	
7 8	比率の検定（χ^2　検定とFisher検定），オッズ比とリスク比	
9 10	ノンパラメトリック検定（Wilcoxon符号順位検定とWilcoxon順位和検定），分散分析	
11 12	回帰分析と相関係数	
13 14	重回帰分析とロジスティック回帰分析	
15	生命表分析	

準備学習：【時間】予習として講義1コマについて1時間30分以上，復習として課題学修を含めて講義1コマについて3時間以上を学修および演習すること
【予習・復習内容】到達目標，授業内容，講義資料等を基にして予習・復習すること。また学内コンピュータールームを活用し講義資料内の練習問題について復習し，また課題レポートを作成すること。

評価方法：講義への出席，受講態度，課題レポートによって総合的に評価する。課題に対するレポートを回収した上でフィードバックを行う。出席回数は2／3以上とする

参 考 書：必要に応じて参考文献，参考図書，教科書及び参考資料等は，別途指定する，または随時提示する

オフィスアワー：松島　雅人　clinicalepi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　15：00～17：00　臨床疫学研究部
曜　日　木曜日
連絡先　内線2398・2399

科 目 名：基礎人類遺伝学 英 文 名：Basic human genetics 科目区分：専門科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：前期 単 位 数：1単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：遺伝カウンセリングにおける情報提供に必要な人類遺伝学の基礎的知識をヒトの遺伝学の側面から系統的に学ぶ。

到達目標：人類遺伝学の概念，歴史，セントラルドグマなど遺伝学の基礎を理解し，遺伝医学の側面から，主要な分子遺伝学的技術，細胞遺伝学，メンデル遺伝学，多因子遺伝，ミトコンドリア遺伝，インプリンティング，腫瘍遺伝学などをその代表的な疾患とともに理解できる。

授業方法：講義形式

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	オリエンテーション：遺伝学とは？	川目　裕 福嶋　義光
2	遺伝子，DNA，RNA，ゲノム	
3	遺伝子の担体としての染色体	
4	ヒトのメンデル遺伝（AD，AR）	
5	ヒトのメンデル遺伝（XL）	
6	多因子遺伝とミトコンドリア遺伝	
7	集団におけるアレル頻度のふるまい	
8	ゲノム刷り込み現象とインプリンティング疾患	
9	遺伝医学における解析技術	
10	疾患の遺伝学：先天性疾患（先天異常症）	
11	疾患の遺伝学：先天性疾患（多因子疾患）	
12	疾患の遺伝学：先天性疾患（がん）	
13	遺伝学的検査とデータベース	
14	網羅的ゲノム解析	
15	ゲノム医療と社会	

準備学習：【時間】1コマの授業に対して1時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に下記の教科書の該当部分を予習すること。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。筆記試験にて総合的に評価する。

使用教科書：新川詔夫監修，太田享，吉浦孝一郎，三宅紀子著：遺伝医学への招待。改訂第6版。2020（南江堂）

参 考 書：・Strachan T，Read A著，戸田達史，井上　聡，松本直通監訳：ヒトの分子生物学。第5版。2021。（メディカル・サイエンスイ・ンターナショナル）
・Albert Bら著，中村桂子，松原謙一監訳：THE CELL　細胞の分子生物学。第6版。2017。（ニュートンプレス）

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：臨床遺伝学I 英 文 名：Clinical genetics I 科目区分：専門科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：後期 単 位 数：1単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：ヒトの遺伝性疾患・先天異常の診断，治療・管理，遺伝カウンセリングを扱う臨床遺伝学について理解し，代表的な遺伝性疾患，すなわち周産期，小児（染色体異常，先天異常・奇形症候群），成人（単一遺伝子病，多因子遺伝病），循環器疾患，神経・筋疾患，家族性腫瘍などの分子機構，症状，管理までを学ぶ。さらに，遺伝医療における倫理的，法的課題も重点的に学び，遺伝形式に応じた再発率の推定についても学習する。

到達目標：臨床遺伝学の全般を理解，習得する。基礎人類遺伝学とともに，認定遺伝カウンセラー認定試験の遺伝医学関連の問題の9割以上を解答できる能力を身に付ける。

授業方法：講義形式，各項目の領域の専門家によるオムニバス講義。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	ヒトゲノムと染色体（復習）	川目　裕 黒澤　健司
2	細胞遺伝学	
3	単一遺伝子疾患	佐村　修
4	多因子疾患	玉利　真由美
5	集団遺伝学	花岡　一成
6	ヒト分子遺伝学の研究手法	川目　裕 玉利　真由美
7	疾患遺伝子の同定	
8	遺伝生化学	大橋　十也
9	腫瘍遺伝学	野木　裕子
10	遺伝性循環器疾患	本郷　賢一
11	出生前診断と着床前診断	佐村　修
12	遺伝医療における倫理的，法的課題	川目　裕 佐村　修
13	遺伝子治療	小林　博司
14	遺伝学的検査	川目　裕 小林　博司
15	バリアントの見方，意味付け	

準備学習：【時間】 1コマの授業に対して1時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】 講義前に下記の教科書の該当部分を予習すること。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。筆記試験と総合的に評価する。

使用教科書：Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）（必携） 2017。

参 考 書：その他，講義中に紹介

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：臨床遺伝学II 英 文 名：Clinical genetics II 科目区分：専門科目 担当教員：川目　裕	開講学年：2年次 開講学期：前期 単 位 数：2単位（選択） 開講形態：演習

授業概要：比較的頻度の高い遺伝性疾患について，成書，文献，ウェブサイトにあたり，最新の情報をもとにfact sheetを作成する。さらに心理社会的側面に関する論文を検索し紹介しながら各疾患に特徴的な遺伝カウンセリングの課題を学ぶ。また，トンプソンのテキストの症例について輪読を行う。

到達目標：頻度の高い遺伝性疾患の概要，分子機構，臨床症状，治療・管理，遺伝カウンセリングのポイントを理解できる。

授業方法：演習形式，初回に，fact sheetでまとめる疾患を選定する（fact sheetの作成方法については，1年次の「遺伝カウンセリング演習」で履修）。講義当日までにfact sheetを作成する。授業では，学生によるfact sheetの発表，関連文献の紹介を行う。1回の授業で2つの疾患を取り上げる。また，トンプソン＆トンプソン遺伝医学に掲載されている「症例」について1疾患を輪読する。最終日には，fact sheetを作成した疾患の中から，ひとつの疾患を選び，ロールプレイを行う。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	疾患の決定	川目　裕 竹内　千仙
2	fact sheetの発表 関連文献の紹介 「症例」について1疾患を輪読 （1回の講義で2つの疾患を取り上げる）	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	ロールプレイ	

準備学習：【時間】1コマの授業に対して4時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】毎回のfact sheetを作成し，かつ関連文献を調べてabstractを印刷して準備する。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。fact sheetの記載内容（50%），発表（50%）で評価する。

使用教科書：Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）（必携）

参 考 書：その他，講義中に紹介

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：遺伝性腫瘍・がんゲノム医療 英 文 名：Hereditary cancer and cancer genomic medicine 科目区分：専門科目 担当教員：川目　裕	開講学年：２年次 開講学期：前期 単 位 数：１単位（選択） 開講形態：講義・演習

授業概要：近年，その発症メカニズムの解明と分子標的治療の進歩が続く癌について，浸透率の高い単一遺伝性の遺伝性腫瘍について，その分子メカニズム，種類，治療法，サーベイランス，遺伝カウンセリングについて，最新の治療の状況を学ぶ。さらに保険適用されたがん遺伝子パネル検査の概要と状況，体細胞でのバリアント，分子標的治療薬，二次的所見，エキスパ＝とパネル，遺伝カウンセリングについて学ぶ。さらに遺伝性腫瘍における小児，AYA世代での発症に関しての医学的，心理社会的課題やその援助法，社会資源等を学ぶ。後半には，学んだ知識をもとにロールプレイを実施して実践能力を高める。

到達目標：頻度の高く，また医学的に重要な遺伝性腫瘍の概念とその管理，遺伝カウンセリングの基本について理解，また遺伝性腫瘍に特有な課題について理解できる。がんゲノム医療におけるがん遺伝子パネル検査の概要，二次的所見，遺伝カウンセリングについて理解し，遺伝カウンセラーとしてチーム医療の役割を理解し，実践できる。

授業方法：講義形式，各項目の領域の専門家によるオムニバス講義。

授業計画：（１回は１時間30分）

回	内　容	担当者
1	遺伝性腫瘍の基礎：癌発症の基礎	吉田　清嗣
2	代表的な遺伝性腫瘍：総論	川目　裕 秋山　政晴
3	遺伝性腫瘍各論：遺伝性乳癌卵巣癌症候群①	野木　裕子
4	遺伝性腫瘍各論：遺伝性乳癌卵巣癌症候群②	野木　裕子
5	遺伝性腫瘍各論：Lynch症候群	川目　裕 秋山　政晴
6	遺伝性腫瘍各論：小児期発症の遺伝性腫瘍（網膜芽細胞腫，Von Hippel-Lindau病，Li-Frameni症候群）	秋山　政晴
7	遺伝性腫瘍各論：小児期発症の遺伝性腫瘍の特有の課題	秋山　政晴
8	がんゲノム医療：がん遺伝子パネル検査	宇和川　匡
9	がんゲノム医療：二次的所見	川目　裕 秋山　政晴 竹内　千仙
10	がんゲノム医療：二次的所見の遺伝カウンセリング	
11	遺伝性腫瘍の多遺伝子パネル検査	
12	遺伝性腫瘍：ロールプレイ①　シナリオ作成	
13	遺伝性腫瘍：ロールプレイ②　ロールプレイ実践	
14	がん遺伝子パネル検査：ロールプレイ③　シナリオ作成	
15	がん遺伝子パネル検査：ロールプレイ④　ロールプレイ実践	

準備学習：【時間】１コマの授業に対して１時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に下記の教科書の該当部分を予習すること。

評価方法：授業への出席は80％以上必要。筆記試験と総合的に評価する。

参考書・ウェブサイト：・Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）2017。
・GeneReviews https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK1116/　その他，講義中に紹介

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：ゲノムバイオインフォマティクス基礎 英 文 名：Basics of genomic bioinformatics 科目区分：専門科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：通年 単 位 数：1単位（選択） 開講形態：講義・演習

授業概要：遺伝子解析，ゲノム解析によって得られる一塩基バリアント，in/del，コピー数多型等の解釈のプロセスの理解をするための講義および演習。

到達目標：遺伝カウンセラーとして必要な，遺伝子・ゲノム解析データを解釈するためのプロセスを理解する。また，バリアントの結果について検証できる基本的なスキルを身につける。

授業方法：バリアントの概念，解釈に必要な種々のデータベース，またガイドラインなどの講義。実際のバリアントを提示し，その病的意義を解釈する演習。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	バリアントとは	川目　裕 玉利　真由美
2	バリアントのタイプと記載法	
3	ゲノム情報のデータベース①	玉利　真由美
4	ゲノム情報のデータベース②	
5	次世代シークエンサーの仕組みと生み出されるバリアント	大石　公彦
6	バリアント解釈の基本とACMG/AMPのガイドライン	
7	バリアント解釈①	川目　裕 小林　博司
8	バリアント解釈②	川目　裕 竹内　千仙

準備学習：【時間】予習・復習合わせて29時間以上の学習を求める。
【予習・復習内容】講義前に下記の教科書の該当部分と文献を予習すること。講義では課題を指示する。

評価方法：授業への出席は，80%以上必要。課題の提出内容，バリアント解釈の正答率を総合する。

参考書・文献：
・Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）2017。
・Richards et al. Standards and guidelines for the interpretation of sequence variants: a joint consensus recommendation of the American College of Medical Genetics and Genomics and the Association for Molecular Pathology. Genet Med 2015 May;17(5):405-24

オフィスアワー：
担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：遺伝カウンセリング概論 英 文 名：Introduction to genetic counseling 科目区分：遺伝カウンセリング系科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：前期 単 位 数：2単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：遺伝カウンセリングの基礎を学ぶ。歴史，概念，面接技術，家族歴の聴取と記載，遺伝医学的評価，患者への教育，リスク・コミュニケーション，文書作成，遺伝カウンセリングの研究等について，遺伝カウンセリングの発祥の地であるアメリカの教科書（A Guide to Genetic Counseling）を用いながら，その重要な5章について重点的に学修し，全体を俯瞰する。さらに我が国の遺伝医療の状況,遺伝カウンセリングの状況について理解する。

到達目標：遺伝カウンセリングを理解し，遺伝カウンセリングの実践への準備ができる。

授業方法：各章の指定された部分を指示するので，事前に全訳を行い，ポイントをまとめる。それをもとに輪読する。内容の理解ができた後，教員からの重要なポイントについて講義にてさらに理解を深める。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	オリエンテーション：遺伝カウンセリングとは？遺伝カウンセリングの歴史	川目　裕 福嶋　義光
2	第1章　The Practice of Genetic Counseling (1)	
3	第1章　The Practice of Genetic Counseling (2)	
4	第2章　The Ultimate Genetic Tool: Lesson in The Family History (1)	
5	第2章　The Ultimate Genetic Tool: Lesson in The Family History (2)	
6	第3章　Interviewing: Beginning to See Each Other (1)	
7	第3章　Interviewing: Beginning to See Each Other (2)	
8	第4章　Thinking It All Through: Case Preparation and Management (1)	
9	第4章　Thinking It All Through: Case Preparation and Management (2)	
10	第5章　Psychosocial counseling (1)	
11	第5章　Psychosocial counseling (2)	
12	第6章　Patients Education	
13	第7章　Risk Communication and Decision-Making	
14	第12章　Ethical and Legal issues	
15	我が国の遺伝医療，遺伝カウンセリングの状況，専門職の制度や仕組み	

準備学習：【時間】1コマの授業に対して4時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に指定する部分を読む，かつポイントを事前に翻訳して講義に参加する。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。さらに講義中のプレゼンテーション(50%),筆記試験(50%)にて総合的に評価する。

使用教科書：Uhlmann WRら編集：A Guide to Genetic Counseling, 2nd ed.(Wiley-Blackwell)(必須)

参 考 書：・福島明宗，川目裕，山本佳世乃監修：遺伝カウンセリングガイド（メディカルドゥ）
・千代豪昭監修：遺伝カウンセラーのための臨床遺伝学講義ノート（オーム社）

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：遺伝カウンセリング演習 英 文 名：Applied genetic counseling 科目区分：遺伝カウンセリング系科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：後期 単 位 数：1単位（必修） 開講形態：演習

授業概要：遺伝カウンセリングにおいて頻度の高い遺伝性疾患（常染色体顕性遺伝，常染色体潜性，X連鎖性，多因子疾患）を学び，“fact sheet”を作成する。それらの疾患に関してロールプレイを行いながら，遺伝カウンセリングの実践の準備を行う。また，遺伝外来や遺伝カウンセリング外来の外来陪席見学とそれらのカンファレンスの参加を通じて，様々な症例の遺伝カウンセリングの状況を学ぶ。陪席症例については，遺伝カウンセリング記録，カンファレンスにおいての疾患説明等の作成発表を行い，臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーの指導を通じて，2年次の遺伝カウンセリング実習への準備を行う。

到達目標：頻度の高い疾患を自身で調べることができ，自分で遺伝カウンセリング準備から終結までの計画を建てることができる。遺伝カウンセリングにおけるチーム医療を理解できる。

授業方法：事前に提示された遺伝性疾患についてfact sheetを作成，それを発表する。症例陪席については，適宜，日程を提示する。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	遺伝医学の情報収集の仕方	川目　裕 竹内　千仙
2	fact sheetとは，その作成法	
3	家系図の聴取の実際と遺伝カウンセリングの導入	
4	チーム医療と認定遺伝カウンセラーの役割，倫理綱領	
5	ロールプレイとは，その実際	
6	fact sheetの発表と講義①（常染色体顕性疾患）	
7	ロールプレイ①	
8	fact sheetの発表と講義②（常染色体潜性疾患）	
9	ロールプレイ②	
10	fact sheetの発表と講義③（X連鎖性疾患）	
11	ロールプレイ③	
12	fact sheetの発表と講義④（多因子疾患）	
13	ロールプレイ④	
14	遺伝カウンセリング記録とSV（スーパービジョン）	
15	遺伝ドラマとシナリオ・ロールプレイ	

準備学習：【時間】1コマの授業に対して1時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】講義前に指定する疾患のfact sheetを作成する。

評価方法：授業への出席は80%以上必要。fact sheetの内容とプレゼンテーション50%，ロールプレイへの意欲50%を総合的に評価する。

参 考 書：
- Nussbaumら著，福嶋義光監訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）2017。
- 新川詔夫監修，福嶋義光編集：遺伝カウンセリングマニュアル　改定第2版（南江堂）
- 千代豪昭監修：遺伝カウンセラーのための　臨床遺伝学講義ノート（オーム社）
- Cassidy SB, Allanson JE 著：Management of Genetic Syndrome 4th ed.,（Wiley-Blackwell）
- GeneReviews：http://www.ncbi.nlm.nih.gov/sites/GeneTests/?db=GeneTests

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：遺伝カウンセリング実践論 英 文 名：Practical genetic counseling 科目区分：遺伝カウンセリング系科目 担当教員：川目　裕	開講学年：２年次 開講学期：前期 単 位 数：１単位（必修） 開講形態：講義

授業概要：遺伝カウンセリングの実践における基本的概念である情報提供，傾聴，共感的態度，非指示的カウンセリング，クライエントとの協働作業，遺伝カウンセリングにおけるカウンセリング理論を，ロールプレイ演習とともに学ぶ。遺伝カウンセリング発祥の北米の実践についても最新の現状も学ぶ。さらに臨床心理の専門家を招いての講義も予定。

到達目標：遺伝カウンセリング実践に必要なアドバンストスキルと国際的な視野を理解し，遺伝カウンセリングを実践することが出来る。

授業方法：講義形式，ロールプレイ。各講義の前に予習をして臨むこと。

授業計画：（１回は１時間30分）

回	内　容	担当者
1	オリエンテーション：遺伝カウンセリング：Facilitating the Genetic Counseling Process：A Practice Manual, 2 nd ed. の概説，overview	川目　裕 大石　公彦 竹内　千仙
2	遺伝形式の説明①：AD（ロールプレイ）	
3	遺伝形式の説明②：AR（ロールプレイ）	
4	遺伝形式の説明③：XL（ロールプレイ）	
5	遺伝形式の説明④：多因子（ロールプレイ）	
6	遺伝形式の説明⑤：ミトコンドリア遺伝（ロールプレイ）	
7	導入，アイスブレイク，アジェンダ設定	
8	家系図の聞き方	
9	面接技法①：Listening to clients：Attending skills, and Primary empathy skills, Collaborating with clients：Providing information（delivering difficult news）	
10	面接技法②：Collaborating with Clients：Assisting in Client Decision Making	
11	面接技法③：Responding to Client Cues：Advanced Empathy and Confrontation	
12	北米の遺伝カウンセリングの実践の状況	
13	遺伝カウンセリング・スキル・ロールプレイ演習(1)	
14	遺伝カウンセリング・スキル・ロールプレイ演習(2)	
15	Recognizing Your Limits: Transference, Countertransference, Stress, and Burnout	

準備学習：【時間】１コマの授業に対して１時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】：講義前に指定する単元について下記の教科書を事前に読むこと。

評価方法：授業への出席は，80%以上必要。ロールプレイの意欲，課題の内容にて総合的に評価する。

使用教科書：Veach PMら：Facilitating the Genetic Counseling Process: A Practice Manual, 2nd ed.（Springer）（必須）

参 考 書：Weil J. Psychosocial Genetic Counseling（Oxford Monographs on Medical Genetics）（Oxford University Press）

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科　目　名：遺伝カウンセリング実習 英　文　名：Clinical rotation for genetic counseling 科 目 区 分：実習・特別研究科目 担当代表教員：川目　裕	開講学年：2年次 開講学期：通年 単 位 数：10単位（必修） 開講形態：実習

授業概要：臨床遺伝専門医・指導医や認定遺伝カウンセラーの指導のもとに，東京慈恵会医科大学附属病院遺伝診療部において，遺伝医療の外来，遺伝カウンセリング外来に同席して実習をおこなう。能力に応じて，疾患説明用aidsの作成，家系図の聴取や記載，説明の補助や記録，診療後のフォロー，電話フォローアップなどを実習する。実習中には，周産期領域，小児領域，成人領域，腫瘍領域の満遍ない症例に陪席する。
担当症例については，遺伝カウンセリング記録を作成し，それをもとに指導医・認定遺伝カウンセラーのスーパーヴァイズを受ける。また，症例カンファレンスにて陪席した症例の発表を担当する。
さらに，当院の小児科，産婦人科，腫瘍・血液内科において，各診療科に専門的な検査や外来診療について陪席を行い遺伝医療に関わるクライエントの実態を把握する。がん遺伝子パネル検査に関連して，定例のエキスパートパネル（ウェブ開催）に参加する。

到達目標：遺伝カウンセリングの準備，セッションの目的やゴール，その後のフォローアップの全体像を理解し，家族歴聴取や説明書作成などを指導医・認定遺伝カウンセラーとともに実践できる。併せて心理社会的フォローアップの計画と実践ができる。

担当教員：川目　裕（2単位），佐村　修（2単位），小林　博司（1単位），花岡　一成（0.5単位），野木　裕子（1単位），秋山　政晴（1単位），宇和川　匡（0.5単位），大石　公彦（0.5単位），本郷　賢一（0.5単位），竹内　千仙（1単位）

授業方法：外来陪席・実習，カンファレンス参加，スーパービジョン。遺伝カウンセリング記録の作成。

授業計画：担当教員の指示による。外来の陪席は，2年次の4月から本学附属病院の遺伝外来に，原則，月，火，水，木，金，土曜日に異なった領域の遺伝診療の各外来セッション1名ずつ同席する（資料4参照）。

外来内容

	月	火	水	木	金	土
AM	遺伝診療 外来（一般）	遺伝診療 外来（一般）	産科周産期・ NIPT	HBOC 乳腺外科	遺伝診療 外来（一般）	HBOC 泌尿器科
			PKD腎疾 患・内科			耳鼻科
PM	産科周産期・ NIPT	遺伝診療 外来（一般）	産科周産期・ NIPT	婦人科	遺伝診療 外来（一般）	産科周産期・ NIPT
	婦人科・ 遺伝性腫瘍			遺伝性腫瘍	耳鼻科	HBOC 泌尿器科

準備学習：【時間】
【予習・復習内容】陪席症例の疾患については事前に疾患概要を予習して臨む。
陪席終了後は，全例に関して遺伝カウンセリング記録を作成する。
陪席時の担当教員，あるいは認定遺伝カウンセラーとともに，記録と元にスーパービジョンを実施する。また，適宜，代表担当教員とも，スーパービジョンを実施して遺伝カウンセリング記録の作成に臨む。

評価方法：出席，実習での態度，知識レベル，遺伝カウンセリング記録の内容，スーパービジョンでの討論を総合的に評価する。

参 考 書：専門科目，遺伝カウンセリング系科目に掲載したテキスト，参考書

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：遺伝カウンセリング研究方法論 英 文 名：Methods and implementation of genetic counseling research. 科目区分：実習・特別研究科目 担当教員：川目　裕	開講学年：1年次 開講学期：後期 単 位 数：2単位（必修） 開講形態：講義・演習・実習

授業概要：遺伝カウンセリングの実践の基盤となるエビデンスを生成するための遺伝カウンセリングに関する研究の歴史，状況，方法論を学び，あわせて，自らの課題研究のテーマについて担当教員と討論しながら探索し,実現可能な研究の計画を立案する。本講義の終わりには，研究テーマとその計画についてパワーポイントにまとめて発表会を実施する。その際，学生，研究指導教員も参加し，発表内容に関して討論を行い，2年次の課題研究の準備へと役立てる。
本修士課程における課題研究は，原則として，遺伝医学や遺伝カウンセリングに関連するテーマに関して，システマティック・レビュー，あるいは調査研究を実施する。
なお，授業計画の第9回から11回は，医学系専攻博士課程の共通カリキュラムの「大学院特別科目・セミナー」を受講する。本講義は，優れた医学研究者・指導者，臨床医師による最新の研究に関する講義であり，遺伝カウンセリング研究を実施するための姿勢や魅力を習得する。

到達目標：専門職である遺伝カウンセラーとして，医学研究の枠組みとそのプロセスを理解し，遺伝カウンセリング研究の意義，動向，位置づけを理解して，研究を立案することができる。

授業方法：講義，および研究計画立案，パワーポイントによる発表資料の作成と発表。

授業計画：（1回は1時間30分）

回	内　容	担当者
1	遺伝カウンセリング研究の意義と役割	川目　裕 山本　佳世乃
2	遺伝カウンセリング研究で用いる研究手法：量的研究と質的研究①	
3	遺伝カウンセリング研究で用いる研究手法：量的研究と質的研究②	
4	遺伝カウンセリング研究で用いる研究手法：システマティックレビュー①	
5	遺伝カウンセリング研究で用いる研究手法：システマティックレビュー②	川目　裕 竹内　千仙
6	遺伝カウンセリング研究で用いる研究手法：システマティックレビュー③	
7	研究と倫理	川目　裕 大橋　十也
8	患者・市民参画（PPI：Patient and Public Involvement）	川目　裕 竹内　千仙
9	大学院特別講義・セミナー①	
10	大学院特別講義・セミナー②	
11	大学院特別講義・セミナー③	
12	研究テーマに沿って計画書を作成 発表用のパワーポイントを作成・発表 発表会を1月あるいは2月上旬に開催（追って日時が指定される）	川目　裕 大橋　十也 竹内　千仙 山本　佳世乃
13		
14		
15		

準備学習：【時間】1コマの授業に対して4時間の予習・復習を求める。
【予習・復習内容】担当教員の指示による。

評価方法：学生の研究内容，他の学生の研究の理解度と研究成果発表方法について総合的に評価する。

参 考 書：担当教員の指示による。

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

科 目 名：課題研究 英 文 名：Paper research & Basic seminar 科目区分：実習・特別研究科目 担当教員：川目　裕，大橋十也，吉田清嗣，佐村修，小林博司，玉利真由美，本郷賢一，大石公彦，花岡一成，佐藤正美，野木裕子，宇和川匡，秋山政晴，竹内千仙	開講学年：2年次 開講学期：通年 単 位 数：5単位（必修） 開講形態：演習

授業概要：遺伝カウンセリングに関する修士の特定の研究課題を作成するため，研究指導教員の指導のもと計画を立て研究を推進する。1年次の遺伝カウンセリング研究方法論の学修をもとに，さらなる自身の研究を推進し，研究成果を論文としてまとめ，発表を行う。

到達目標：特定の課題研究を完成させる。

授業方法：個人面談，グループ討論，発表。指導の形態は，対面を原則とする。状況に応じてオンラインも併用することがある。代表教員（川目　裕）とは定期的な面談を行い，進捗状況をフィードバックする。なお，代表教員とは，本修士課程の遺伝カウンセリングコースを包括的に統括し学生の指導にあたる教員である。

授業計画：対面指導の時間帯は，授業時間外の学習も含め研究指導教員の指示による。

4月	オリエンテーション，研究指導教員の決定 研究テーマの設定 ・1年後期の「遺伝カウンセリング研究方法論」の成果をもとに，学生と研究指導教員との間で，研究計画について十分な検討を行い，課題研究の実現可能性を検討する。
5月－6月	研究計画の推敲 ・自分の研究課題に応じ，これまでの科目履修の知識をもとに，研究指導教員との定期的な指導により研究計画を推敲する。
7月	研究計画の完成と発表会 ・学生は研究指導教員および研究指導補助教員からの助言・指導を受けて研究方法等について検討し，研究計画を完成する。 ・研究計画は，公開の発表会にて発表する。
9月－12月	研究計画書をもとに研究を開始。 ・研究は,定期的（原則,月2回）に研究指導教員と研究指導補助教員の進捗ミーティングを行いながら遂行する。
1月	課題研究の論文提出 ・作成した論文を研究指導教員と研究指導補助教員，および学事課に提出。
2月	課題研究の公開審査会と学位審査 ・公開の課題研究の審査会にて，研究指導教員と研究指導補助教員に向けて，研究について成果発表を行う。審査会の日程は学生に12月にアナウンスされる。
3月	研究科委員会にて学位授与最終審査を行う。

準備学習：【時間】

【予習・復習等】

・研究に関連する文献等は事前に予習して臨むこと。
・自らの考えを提示し，自主的に学ぶと共に積極的に指導を求め学修する。
・研究テーマに関連する学術集会や研究会には積極的に出席し最新の研究動向を把握する。
・学会やゼミなどのディスカッションに参加し，各自の研究を発展させる機会を持つ。

評価方法：1年間の研究姿勢・態度，研究進行度，及び企画書等を鑑みて研究指導教員が総合的に評価する。

参考書・文献等：その都度，担当教員の指示による。

オフィスアワー：担当教員　川目裕　hkawame@jikei.ac.jp
竹内千仙　ctakeuchi@jikei.ac.jp
受付時間・場所　　9：00～17：30　遺伝診療部　内線3541

東京慈恵会医科大学大学院学則

※　収載の大学院学則は，本冊子編集時に最新のものであるが，改定になる場合もあるので最新の規程等はイントラネットにて確認すること

12. 東京慈恵会医科大学大学院学則

制定　昭和31年３月１日
改定　令和６年４月１日

第１章　目的・使命

第１条　建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づく研究，教育，医療を推進できる高度な能力を涵養し，医学・看護学研究の振興，医療の実践を通して人類の健康と福祉の向上に貢献することが東京慈恵会医科大学大学院（以下「本学大学院」という）の使命である。

第２条　本学大学院は，その教育研究の向上を図り，前条の目的及び社会的使命を達成するため，本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果について公表するものとする。

２．自己点検・評価の実施体制，実施方法等については，別に定める。

第２章　大学院の組織及び修業年限

第３条　本学大学院に医学研究科を置く。

第４条　本学大学院医学研究科に次の専攻と課程を置く。

専　攻	課　　程
医学系	博 士 課 程
看護学	博士前期課程
	博士後期課程
医科学	修 士 課 程

２．各課程の目的は，別に定める。

第５条　修業年限及び在学年数は次のとおりとする。

⑴　医学系専攻博士課程の修業年限は４年を標準とし，在学年数は８年を超えることができない。

⑵　看護学専攻博士前期課程および医科学専攻修士課程の修業年限は２年を標準とし，在学年数は４年を超えることができない。

⑶　看護学専攻博士後期課程の修業年限は３年を標準とし，在学年数は６年を超えることができない。

第３章　学年，学期及び休業日

第６条　学年は４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第７条　学年は２学期に分ける。

前学期　４月１日から９月30日まで

後学期　10月１日から翌年３月31日まで

第８条　休業日は次のとおりとする。ただし，休業日に講義，演習などを実施することがある。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律で定める休日

⑶　本学創立記念日　5月1日

⑷　学祖　高木兼寛先生記念日　10月第2土曜日

第4章　収容定員

第9条　入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

⑴　医学系専攻博士課程は入学定員66名，収容定員264名とする。

⑵　看護学専攻博士前期課程は入学定員10名，収容定員20名とする。

⑶　看護学専攻博士後期課程は入学定員3名，収容定員9名とする。

⑷　医科学専攻修士課程は入学定員2名，収容定員4名とする。

第5章　授業科目及び履修方法

第10条　授業科目等は次のとおりとする。なお，細目については別に定める。

1　医学系専攻博士課程

専攻名	授　業　科　目　名
医学系	器官病態・治療学
	成育・運動機能病態・治療学
	神経・感覚機能病態・治療学
	病態解析・生体防御学
	社会健康医学

2　看護学専攻博士前期課程

専攻名	分　　野　　名
看護学	先進治療看護学
	基盤創出看護学
	母子健康看護学
	地域連携保健学

3　看護学専攻博士後期課程

専攻名	分　　野　　名
看護学	実践開発看護学分野

4　医科学専攻修士課程

専攻名	授　業　科　目　名
医科学	遺伝カウンセリング学

第11条　授業は共通カリキュラムと選択カリキュラムからなる。

第12条　教育上必要な場合には研究科委員会の議を経て，次のことを行うことができる。

⑴　他の大学院又は研究機関において研究指導を受けることができる。

⑵　夜間その他特定の時間又は時期において，授業又は研究指導を行う等の適当な方法によ

り教育を受けることができる。

第６章　授業科目の履修の認定

第13条　授業科目の履修の認定は試験又は研究報告によって行い，その方法は授業科目を担当する医学研究科教員がこれを定める。

２．博士前期課程における他大学院既修得単位認定については，別に定める。

第14条　合格した授業科目については所定の単位を与える。

第15条　不合格の授業科目については，再試験を行うことがある。病気その他の事故のため試験を受け得なかった者のために追試験を行うことがある。

第７章　課程の修了

第16条　各科目に対する単位数は次の基準によって計算する。

⑴　講義・演習は15から30時間を１単位とする。

⑵　実習は30から45時間を１単位とする。

第17条　医学系専攻博士課程に４年以上在学して医学研究並びに医学教育に関する授業を合計30単位以上履修するとともに，研究指導を受けて独創的研究に基づく学位論文を提出し，学位論文の審査及び最終試験に合格することをもって修了とする。ただし，３年以内に修了の要件を満たした場合については在学期間を３年とすることがある。

２．医学系専攻博士課程において単位を取得したのみで退学した者も入学より８年以内の場合，学位論文の審査及び最終試験を受けることができる。

３．看護学専攻博士前期課程に２年以上在学し，看護学研究並びに看護教育に関する授業を合計30単位以上履修し，かつ必要な研究指導を受け看護学特別研究の学位論文の審査及び最終試験に合格することをもって修了とする。

看護学専攻博士後期課程は３年以上在学し，看護学研究並びに看護教育に関する授業を合計13単位以上履修し，かつ必要な研究指導を受け看護学特別研究の学位論文の審査及び最終試験に合格することをもって修了とする。

４．医科学専攻修士課程に２年以上在学して医学研究並びに医学教育に関する授業を合計33単位以上履修するとともに，研究指導を受けて特定の課題を提出し，その審査及び最終試験に合格することをもって修了とする。

第８章　学位論文審査及び最終試験

第18条　医学系専攻及び医科学専攻の学位論文または特定の課題の指導に当たった医学研究科教授を通じ，所定の書類及び手数料を添えて研究科委員会に提出しなければならない。

２．看護学専攻学位論文は指導に当たった医学研究科教授・准教授を通じ，所定の書類を研究科委員会に提出しなければならない。

第19条　論文審査は，論文を受理した後原則として６ヶ月以内に終了するものとし，最終試験は論文を中心としてこれに関連ある科目の学識と研究能力について筆記又は口頭で行うものとす

る。この論文審査及び最終試験は研究科委員会により選出された委員で組織する学位論文審査委員会が行い，学位論文審査委員長はその結果を研究科委員会に報告し，研究科委員会はその報告に基づいて合否を決定する。

2．特定の課題の審査は，研究科委員会が決定した審査員による審査会での評価をもとに指導教授が審査報告書を作成し，研究科委員会に報告し，研究科委員会はその報告に基づいて合否を決定する。

第20条　医学系専攻博士課程の課程を経ないで学位論文を提出する者は，同課程を経て学位を授与される者と同等以上の内容を有する論文を提出し，且つ医学に関し同様に広い学識を有することが試験により確認された者でなければならない。その試験は口頭又は筆記で行い，外国語（英語）を課すことを原則とする。

第 9 章　学位及びその授与

第21条　学位は博士（医学）（東京慈恵会医科大学),博士（看護学）（東京慈恵会医科大学),修士（看護学）（東京慈恵会医科大学)，修士（医科学）（東京慈恵会医科大学）とする。

第22条　学位は次に該当する者に授与される。

⑴　博士（医学）

①　本学大学院医学研究科医学系専攻博士課程を修了した者

②　大学院医学研究科医学系専攻博士課程の課程を経ないで学位論文を提出し，その審査及び試験に合格し，大学院医学研究科医学系専攻博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると研究科委員会で認められた者

⑵　修士（看護学）

学位は，大学院医学研究科看護学専攻博士前期課程を修了した者

⑶　博士（看護学）

学位は，大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程を修了した者

⑷　修士（医科学）

学位は，大学院医学研究科医科学専攻修士課程を修了した者

第10章　入学，退学，休学，転学

第23条　入学の時期は学年のはじめとする。

第24条　医学系専攻博士課程に入学できる者は次のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学を卒業した者（原則として医学・歯学又は獣医学，薬学（ 6 年制）の課程を修了した者及び大学院修士課程を修了した者）

⑵　学位授与機構で学士（医学・歯学又は獣医学，薬学（ 6 年制））又は修士の学位を授与された者

⑶　文部科学大臣の指定した者

⑷　外国において学校教育における18年の課程を修了した者又は大学院委員会が認めた者

⑸　外国の大学その他の外国の学校[*1)]において，修業年限が 5 年以上である課程を修了す

ること[*2)]により，学士の学位に相当する学位を授与された者

＊１）その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。

＊２）当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものにおいて課程を修了することを含む。

⑹ 臨床に直接かかわる授業細目を選択する者は，原則として医師の免許を有し，２年間の臨床研修を修了した者とする。

２．看護学専攻博士前期課程に入学できる者は次のいずれかに該当する者とする。

⑴ 学士又は学士相当と認めた者で，看護師，保健師，助産師のいずれかの免許を有し，入学時に３年以上の看護関連の実務経験を有する者とする。

⑵ 看護系大学を修了した者

⑶ 看護師，保健師，助産師のいずれかの免許を有し，外国において学校教育法における16年の課程を修了し，大学院委員会が認めた者

３．看護学専攻博士後期課程に入学できる者は次のいずれかに該当した上で，看護師，保健師，助産師のいずれかの免許を有する者とする。

⑴ 修士の学位や専門職学位を有する者，又はそれに相当する学位を授与された者

⑵ 大学を卒業し，大学，研究所等において２年以上研究に従事し，修士の学位を有する者と同等の学力があると大学院委員会（看護学専攻）で認めた者

⑶ 個別の入学資格審査により修士の学位を取得した者と同等の学力があると大学院委員会（看護学専攻）で認めた者

４．医科学専攻修士課程に入学できる者は次のいずれかに該当する者とする。

⑴ 大学を卒業した者

⑵ 学位授与機構で学士の学位を授与された者

⑶ 文部科学大臣の指定した者

⑷ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は大学院委員会が認めた者

⑸ 外国の大学その他の外国の学校[*1)]において，修業年限が５年以上である課程を修了すること[*2)]により，学士の学位に相当する学位を授与された者

＊１）その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。

＊２）当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものにおいて課程を修了することを含む。

第25条　医学系専攻博士課程の入学は志願者の学力，人物について選考の上，学長が許可する。選考の方法は一般入試，社会人入試とし研究科委員会がこれを定める。

2．看護学専攻博士前期課程・博士後期課程及び医科学専攻修士課程の入学は志願者の学力，人物について選考の上，学長が許可する。選考の方法は研究科委員会がこれを定める。

第26条　入学志願者は，所定の入学願書に資格証明書，写真及び入学検定料を添えて提出しなければならない。なお，入学検定料は別に定める。

第27条　選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は，指定期日までに，誓約書及びその他所定の書類を提出するとともに，所定の学費を納付しなければならない。

2．前項誓約書において独立の生計を営む成人1名を保証人に定める。

3．保証人は本人在学中のすべてのことについて責任を負わなければならない。

第28条　医学研究科長は前条に定める入学手続きを完了した者に，入学を許可する。

第29条　事情により退学する者は，保証人連名の退学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て研究科長の許可を得なければならない。

第30条　疾病その他やむを得ず休学するときは，事由を記入した休学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て研究科長の許可を得なければならない。

2．疾病その他の事由によって学習することが不適当と認められる場合には，研究科長は休学を命ずることがある。

3．休学期間は通算して2年を越えることができない。

4．休学期間はこれを在学年数に算入しない。

5．医学系専攻博士課程における1年未満の休学期間は期間の長短にかかわらず，1年として計算する。

6．看護学専攻博士前期課程及び医科学専攻修士課程は半期ごとの休学を認める。博士後期課程は，1年未満の休学期間は期間の長短にかかわらず，1年として計算する。

第31条　他の大学院から本学大学院へ転入を志願する者については，本研究科委員会において選考の上，研究科長がこれを許可することがある。

第32条　本学大学院から他の大学院へ転学を志願する者は，授業科目担当教員を経て研究科委員会の承認を得，研究科長の許可を受けなければならない。

第11章　授業料及び入学金

第33条　医学系専攻または医科学専攻に入学を許可された者は，次のとおり入学の手続きと同時に授業料及び入学金を納めなければならない。

⑴　医学系専攻博士課程・医科学専攻修士課程の授業料は年額400,000円，入学金は100,000円とする。

⑵　授業料は前期に全納するか，又は次の2期に分けて納めなければならない。

前期　200,000円　　納期　4月30日まで

後期　200,000円　　納期　10月31日まで

⑶　単位未取得により標準修業年限をこえた場合は前項に準じて授業料を納めなければならない。

2．看護学専攻に入学を許可された者は，次のとおり入学の手続きと同時に授業料及び入学金を納めなければならない。

⑴　博士前期課程の授業料は年額800,000円，入学金は200,000円とする。

授業料は前期に全納するか，又は次の 2 期に分けて納めなければならない。

前期　400,000円　納期　 4 月30日まで

後期　400,000円　納期　10月31日まで

⑵　標準修業年限をこえる授業料については学期ごとに半額とする。

⑶　博士後期課程

授業料は年額600,000円，入学金は200,000円とする。本学博士前期課程から博士後期課程に入学する者は，入学金を免除する。

授業料は前期に全納するか，又は次の 2 期に分けて納めなければならない。

前期　300,000円　納期　 4 月30日まで

後期　300,000円　納期　10月31日まで

第34条　一旦納入した学費は理由の如何にかかわらず一切返還しない。

第12章　外国人特別学生及び聴講生，研究生，科目等履修生，長期履修生

第35条　本学大学院医学研究科へ入学を志願する外国人で，外務省在外公館又は本邦所在の外国公館の紹介のある者は，第24条の規定にかかわらず選考の上，外国人特別生として入学を許可することがある。外国人特別生は定員外とする。

第36条　特定の授業科目の聴講を志願する者があるときは，選考の上聴講生として入学を許可することがある。

第37条　医学系専攻博士課程の聴講生として入学を志願し得る者は次に該当する者とする。なお，入学の手続き，入学金，聴講料については別にこれを定める。

1．修業年限 4 年以上の大学を卒業した者

2．前号と同等以上の学力があると認められた者

第38条　医学系専攻博士課程の研究生，科目等履修生，長期履修生に関する事項は別にこれを定める。

2．看護学専攻博士前期課程及び博士後期課程の科目等履修生，長期履修生に関する事項は別にこれを定める。

第13章　運営組織及び教員組織

第39条　本学大学院医学研究科に研究科長を置く。本研究科長は原則として学長がその任にあたる。なお選考の規程は別に定める。看護学専攻・医科学専攻の専攻長及び副専攻長は研究科長が指名する。

第40条　本学大学院医学研究科教員は東京慈恵会医科大学教授でかつ別に定める基準により選考される。なお，准教授及び講師をこれにあてることができる。

第41条　本学大学院に研究科委員会を置く。研究科委員会は研究科委員会（医学系専攻），研究科委員会（看護学専攻）及び研究科委員会（医科学専攻）で構成する。

2．研究科委員会（医学系専攻），研究科委員会（看護学専攻）及び研究科委員会（医科学専攻）のそれぞれの委員長は研究科長が指名する。

3．研究科委員会（医学系専攻）は研究科長及び医学研究科教員のうち，教授である者をもって組織する。

4．研究科委員会（看護学専攻）は研究科長及び研究科授業担当教授，授業担当准教授をもって組織する。

5．研究科委員会（医科学専攻）は研究科長及び専任教員をもって組織する。

第42条　研究科委員会は次の事項を審議する。

⑴　研究科の授業担当者の選考に関する事項

⑵　研究科の教育課程に関する事項

⑶　入学，修了，退学，休学などに関する事項

⑷　試験に関する事項

⑸　学位論文審査並びに最終試験に関する事項

⑹　研究科長の諮問事項に関する事項

⑺　その他学事に関する事項

第43条　本学大学院の各課程に大学院委員会を置き，大学院の重要事項を協議・検討する。

第44条　大学院委員会（医学系専攻博士課程），大学院委員会（看護学専攻）及び大学院委員会（医科学専攻修士課程）の運営規定は別に定める。

第45条　大学院委員会の委員長は研究科長が指名する。

第14章　研究指導施設

第46条　本学大学院医学研究科に研究室及び実験，実習室を置く。必要に応じ医学部及び大学附属病院の施設を用いる。

第15章　厚生保健施設

第47条　厚生保健施設については東京慈恵会医科大学学則第50条を準用する。

第16章　賞罰

第48条　賞については別にこれを定める。

第49条　本学の規則に違反し，又は大学院生としての本分に反する行為をした者は研究科委員会の議を経て研究科長が懲戒する。

2．懲戒は，訓告，停学及び退学とする。

3．懲戒の手続等については，別に定める。

附　則　本学則は，令和6年4月1日から施行する。

改定　令和2年4月1日

令和4年4月1日

13. 学術情報センター利用案内

学術情報センターは，本学における教育・研究・診療等の活動を学術情報利用の面から支えることを目的としており，図書館（西新橋校），図書館国領分館，編集室，標本館，写真室，史料室，メディカルライティングオフィス，国際交流センターから構成されている。

図書館		標本館	内線2141
カウンター（館内呼出）	内線2125	写真室	内線2142
相互貸借・参考調査	内線2122	史料室	内線2143
国領分館	内線73-2402	メディカルライティングオフィス	内線2125
編集室	内線2120	国際交流センター	内線2869
学術リポジトリ・盗用チェックツール	内線2980		

図　書　館（高木会館１・２階）・図書館国領分館（国領校）
編　集　室（高木会館２階）

図書館では，本学教職員・学生を対象として，資料の閲覧，貸出，複写，情報検索，他図書館との相互利用のサービスを提供するとともに，派遣中の教員や同窓生，港区医師会会員，他大学・医療機関に所属する方からの問合せにも対応している。

国領分館では，主として医学科国領校と看護学科を対象として，一般教養及び看護学の資料の閲覧，貸出のサービスを提供している。

編集関連では，『東京慈恵会医科大学雑誌』『Jikeikai Medical Journal』『教育・研究年報』『Research Activities』の編集作業と論文執筆に関する案内を担当している。

入館には，氏名章が必要である。

１）利用時間

図書館

月曜日～金曜日：８：00～22：00

土曜日　　：８：00～19：00

日曜日　　：９：00～17：00

（日曜日は本学教職員，学生，同窓生のみ利用可能。また，臨時休館となる場合がある。）

編集室

月曜日～土曜日：９：00～17：30

図書館国領分館

月曜日～金曜日：９：00～20：30（８月は９：00～19：30）

土曜日：９：00～17：30

休館日

日曜日（国領分館）

国民の祝日，年末年始

本学創立記念日（5月1日），高木兼寛先生記念日（10月第2土曜日）

※　台風，雪などの自然災害により閉館・休館となることがある。

2）サービス紹介

⑴ 閲　　覧

雑誌は誌名のアルファベット順に，図書は主題別に並んでいる。書庫，閲覧室の資料はすべて自由に利用できる。

洋雑誌	最新年	1階閲覧室
	1984年～前年	書庫1階～1階閲覧室
	1983年以前	書庫4階
和雑誌	最新年	1階閲覧室
	1976年～前年	書庫2階
	1975年以前	保存書庫（閉架・別置）
図　書	書庫3階 和図書，洋図書に分かれ，主題別に並べられている。医学関係は米国国立医学図書館分類表（NLMC），自然科学系は日本十進分類表に従っている。	
	新着図書	1階閲覧室（展示期間は1週間）
電子ジャーナル・電子ブック	1階閲覧室（専用端末） 大学ネットワークに接続されたパソコンからも利用可能	

⑵ 所蔵資料の確認

図書館所蔵の資料をオンライン目録（OPAC）で確認することができる。

OPACはインターネット環境があればどこでも利用可能。学術情報センターのホームページ（http://www.jikei.ac.jp/academic/micer/toshokan.htm）の「OPAC（蔵書検索）」をクリックする。

⑶ 貸　　出

診療ガイドライン，辞書・辞典類，統計書などの参考図書，新着展示期間中の図書，未製本雑誌（主に最新年の雑誌）などの特定の資料以外は貸出できる。カウンターで氏名章を提示して手続きをする。貸出冊数は3冊まで，貸出期間は1週間であり，予約が入っていない限り2回まで貸出の延長が可能である。国領分館の資料の西新橋校での貸出も可能である。

⑷ 返　　却

貸出資料はカウンターまたは学内の図書返却ボックスへ返却する。国領分館の資料の西新橋校での返却も可能。返却期限を過ぎても返却されない場合は，貸出ができなくなる。

⑸ 複　　写

著作権法の定める範囲で複写が可能。カウンターで申し込む方法と，セルフコピー機を利用する方法がある。西新橋校にて国領分館の資料の複写の申し込みもできる。

料金（西新橋）

カウンターでの申し込み（代行コピー）：

白黒：30円／１枚　カラー：50円／１枚

セルフコピー（カード）：

500円／50度　1000円／100度　3000円／300度

白黒コピー：１度／１枚　カラーコピー：５度／１枚

セルフコピー（現金）：

白黒コピー：10円／１枚　カラーコピー：50円／１枚

⑹ 相互利用

図書館に所蔵のない資料は，他機関の図書館から複写を取り寄せたり，現物を借用することができる（複写・郵送料の実費は個人負担）。また，他機関の図書館に来訪して，所蔵資料を閲覧・複写することも可能である。申し込みはマイライブラリ（事前登録要）かカウンターの所定の用紙に必要事項を記入する。

⑺ データベース検索

MEDLINE（PubMed），医中誌Web，CINAHL，最新看護索引Web，The Cochrane Library，UpToDateなどのデータベースを大学ネットワークに接続されているパソコンから利用できる。各種情報検索の代行やデータベース利用法についての講習会も行っている。

⑻ ノートパソコン貸出

貸出用ノートパソコンを利用することができる（図書館内利用のみ）。貸出の際は，カウンターで氏名章を提示して手続きする。

⑼ 無線LAN

図書館内無線LANが利用できる。カウンターで氏名章を提示して手続きする。

無線LAN利用のためのパスワードは随時変更されるため，カウンターに問い合わせること。

⑽ リモートアクセス

電子ジャーナル及びデータベースを学外（自宅や派遣先など）から利用できる。なお，本サービスは出版社及び提供元により認められた範囲内で提供される。

当件に関しては，本学イントラネットを参照。

（http://www.jikei.ac.jp/academic/micer/remote.htm）

⑾ Elsevier社電子ジャーナルのPay Per View利用

Elsevier社電子ジャーナルで年間購読している80誌以外の約2,200誌は，Pay Per View（1論文ダウンロードごとの課金）方式で利用ができる（利用には事前に利用者登録が必要）。

当件に関しては，本学イントラネットを参照。

（http://www.jikei.ac.jp/academic/micer/ppv.htm）

⑿ マイライブラリ

文献複写依頼，図書の予約，貸出中の資料の延長，貸出履歴の参照をインターネット上で行うことができる（利用には事前に利用者登録が必要）。

当件に関しては，図書館のホームページ「マイライブラリ」を参照。

（http://www.jikei.ac.jp/academic/micer/mylibrary.htm）

⒀ 剽窃・盗用チェックツールTurnitinの利用

本学では，提出レポートや論文原稿を，インターネット上のウェブページや雑誌論文，学術論文と比較，照合し，類似性をチェックするためのツールであるTurnitinの利用契約を結んでいる。

当件に関しては，図書館のホームページ「Turnitin feedback studio」を参照。

（http://www.jikei.ac.jp/academic/micer/turnitin.htm）

⒁ 個人閲覧室・グループ学習室

個人学習用に書庫3階と書庫4階に個人閲覧室，グループ学習用に1階閲覧室にグループ学習室を設置している。利用には1階カウンターで所定の手続きを行う。

⒂ 学術リポジトリ

学内刊行物に掲載された記事，本学教員の執筆論文，学位の審査結果要旨と主論文の学術リポジトリへの登録を担当している。学位論文を学術リポジトリに登録する際の著作権処理に関する問合せは学術リポジトリ担当（libir@jikei.ac.jp）で受け付けている。

当件に関しては，「東京慈恵会医科大学学術リポジトリ」を参照。

（https://ir.jikei.ac.jp）

⒃ 視聴覚資料

以下の資料を所蔵していて，カウンターで手続きのうえ利用できる。

DVD，ブルーレイ，VHS

⒄ 学術雑誌の編集・発行

編集室では大学の学術雑誌『東京慈恵会医科大学雑誌（慈恵医大誌）』（和文誌・年6回）『Jikeikai Medical Journal（JMJ）』（英文誌・年4回）を編集・発行し，学術リポジトリで全

文公開している。両誌とも大学所属者には掲載費補助等がある。

当件に関しては，編集室のホームページを参照。

（https://www.jikei.ac.jp/academic/micer/henshu.htm）

標　本　館（高木会館 4 階）

1）利用時間

月曜日～土曜日： 9 ：00～17：00

2）標本

⑴　自学自習のための施設であり，マクロ標本，顕微鏡標本を所蔵している。

⑵　教育用標本は自由に閲覧できる。貸出期間は 3 日間以内。

写　真　室（高木会館 2 階）

1）利用時間

月曜日～土曜日： 9 ：00～17：30

（大判ポスター出力の受付は 9 ：00～17：00）

2）サービス

撮影サービス（標本，患者病変部，各種検査物，医療機器など）

ビデオ編集，デジタルビデオカメラ／デジタル一眼レフカメラの貸出

カラープリント出力，大判ポスター出力

料金

カラープリント出力（写真用紙：絹目調）

L（89mm ×127mm）：40円／ 1 枚， 2 L（127mm ×178mm）：100円／ 1 枚

A 4 （210mm ×297mm）：200円／ 1 枚，A 3 （297mm ×420mm）：400円／ 1 枚

大判ポスター出力（普通紙／クロス紙／光沢紙）

・普通紙A（幅841mm）：50円／10cm

・普通紙B（幅1118mm）：80円／10cm

・光沢紙（幅1118mm）：150円／10cm

・防炎クロス紙［布］（幅1118mm）：300円／10cm

史　料　室（高木 2 号館 6 階）

史料室は，本学に関する歴史的資料，学祖高木兼寛先生の遺品・遺墨などの史料を収集・管理している。展示室には，高木兼寛先生の生涯と本学の歴史が年代を追って理解できるように史料が配列されている。史料の閲覧，展示室の見学の予約は，図書館で受け付けている。

メディカルライティングオフィス（大学管理棟 1 階）

メディカルライティングオフィスは,学内における論文作成支援体制を強化することを目的として,旧医学英語研究室を改組して開設された組織である。メディカルライティングオフィスでは，英文校正だけでなく，論文作成・発表全般に関する相談を受け付けている。

利用時間　月曜日～金曜日：9 ：00～17：00

国際交流センター（大学管理棟 1 階）

国際交流センターは海外の大学及び教育・研究機関との連携による学生や教員の交流活動，本学のグローバル化に向けた学生・教職員教育を促進することにより，本学の教育・研究・診療における国際交流を推進することを目的としている。

受付時間　月曜日～土曜日：9 ：00～17：30

東京慈恵会医科大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程
医学研究科長殿

年　　月　　日

2025年度大学院医学研究科医科学専攻修士課程　履修届
【必修科目】

	科目名	必修選択	学年時期	形式	単位	選択欄
基礎科目	保健医療概論	必修	1年後期	講義	2	
	ヒトの解剖・生理学	必修	1年前期	講義	1	
	医療倫理	必修	1年後期	講義	2	
専門科目	基礎人類遺伝学	必修	1年前期	講義	1	
	臨床遺伝学I	必修	1年後期	講義	1	
遺伝カウンセリング系科目	遺伝カウンセリング概論	必修	1年前期	講義	2	
	遺伝カウンセリング演習	必修	1年後期	演習	1	
	遺伝カウンセリング実践論	必修	2年前期	講義	1	
遺伝カウンセリング実習	遺伝カウンセリング実習	必修	2年通年	実習	10	
	遺伝カウンセリング研究方法論	必修	1年後期	講義・演習 実習	2	
特別研究科目	課題研究	必修	2年通年	演習	5	
合計単位数						

※履修を希望する必修科目の選択欄に〇をつけること

学年　　学籍番号　　氏名

専攻長　　㊞

東京慈恵会医科大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程
医学研究科長殿

年　　月　　日

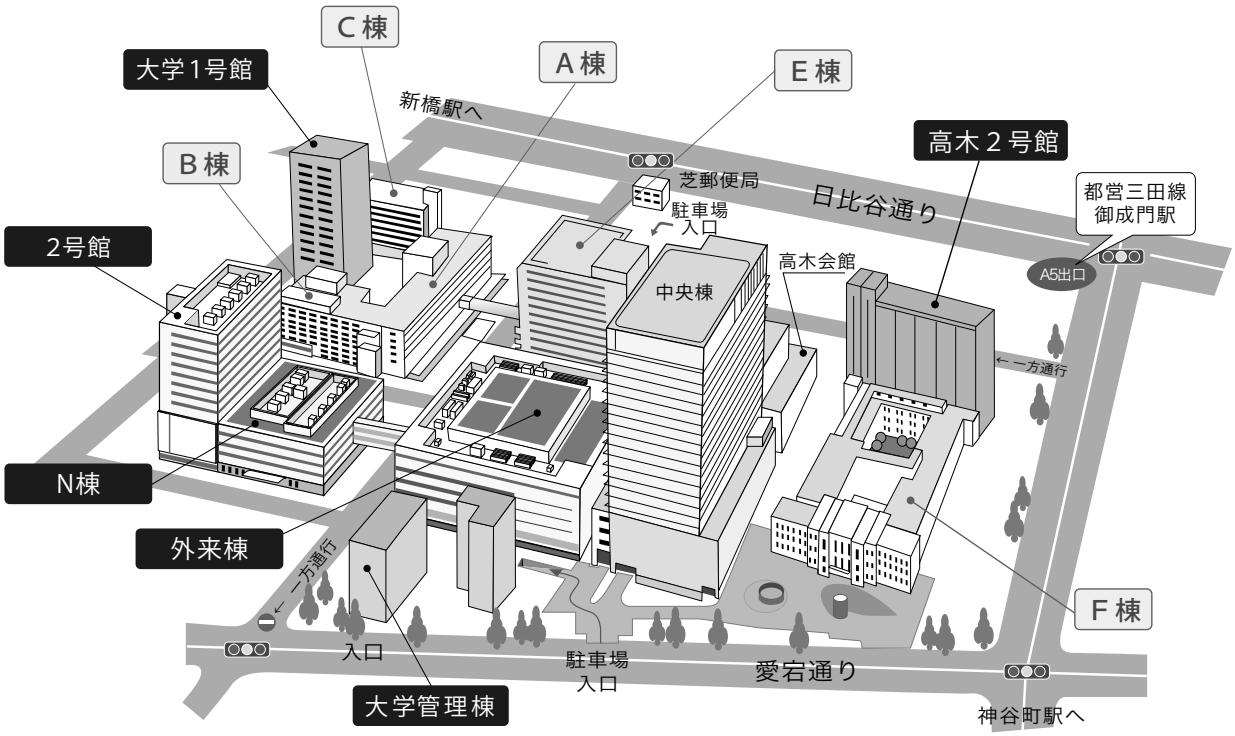
2025年度大学院医学研究科医科学専攻修士課程　履修届
【選択科目】

	科目名	必修選択	学年時期	形式	単位	選択欄
基礎科目	遺伝子操作研究法	選択	1年前期	講義・演習 実験	1	
	医療統計学	選択	1年後期	講義・演習	2	
専門科目	臨床遺伝学II	選択	2年前期	演習	2	
	遺伝性腫瘍・がんゲノム医療	選択	2年前期	講義・演習	1	
	ゲノムバイオインフォマティクス基礎	選択	1年通年	講義・演習	1	
合計単位数						

※履修を希望する選択科目の選択欄に〇をつけること

学年　　学籍番号　　氏名

専攻長　　㊞



大学1号館	大学事務部 学事課 大学1号館講堂（3F） 4階講堂（コンピュータ演習室） 5階講堂 6階講堂
高木2号館	慈恵看護専門学校（1階） 南講堂（地下1階）
大学管理棟	5階看護学専攻 8階同窓会・慈恵医師会・ 生涯学習センター 9階カンファレンスA・B